

平成 30 年度第 1 回 FD・SD 研修会

「大講義室での授業をどうする?! 渡邊芳之先生による講義 Tips ／オープンクラス報告と今後の課題」 議事録

【日時】平成 30 年 5 月 31 日（木）16:00—17:50

【場所】講義棟 5 番講義室

【司会】豊留 孝仁 講師（教育支援室）

開会挨拶：古岡秀文 教授（FD・SD 強化担当副理事）

大学教員は研究も重要ですが、やはり学生に合わせた講義・授業の工夫・改善も重要です。今日は講義法のポイントについて、渡邊先生にわかりやすく講義いただきます。そのあと豊留先生からはオープンクラスの報告をいただきます。授業参観は大変参考になるものですが、参加者が少ないなどの課題も含めてご紹介したいと思います。

講義「大講義室での授業をどうする?!」 渡邊芳之 教授（人間科学研究部門）

私はこれまで本学でも非常勤講師としても大人数講義型の授業を担当してきた経験がありますので、今日はそれらをもとに自身で工夫したり注意したりしていることなどをご紹介します。あくまで一つの方法として参考にさせていただければと思います。

授業では最近の大学生のスタイルに寄り添うことが重要だと思います。全般的に、聞こえやすさ、見やすさには特に配慮しています。マイク音量、板書の文字の大きさなどは、学生に確認するのではなく、講義室の最後列でも聞こえる・見えることを自分でチェックしてみることが大切です。私の場合は、マイク音量はやや大きすぎると感じる程度が大人数の講義ではちょうどよいと考えています。文字は大きく書き、板書であれば板面を使い切ってから書いた順に消していくなどの配慮が必要でしょう。

スライドの使用は特に注意したいところです。見やすいフォント（大きさ）や配色、フォロー可能な情報量（文字量）およびページ切り替えのスピードなどを十分検討します。板書と異なり、部屋の照明にも配慮が必要です。部屋全体を暗くするとやはり眠気を誘いますので、黒板灯か前列のみ照明を落とすとよいでしょう。

大講義室の場合は学生の集中力の維持にも気を配っています。適宜ノートを取らせる

ことは、学生の思考を促すとともに集中力を維持させる効果も期待できます。また、眠気を誘わないようにするためには、リズムの単調な話し方を避けたり、スライドにもイラスト・音・動画を入れたりするなど、メリハリをつけることが重要でしょう。雑談も授業にリズムを与えますし、授業内容へのレディネスをもたらす先行オーガナイザーとしての効果も決して無視できません。

大教室の授業がうまくできるようになれば、小教室の授業もよりよくできるでしょう。いわゆる効率化のために大人数授業の需要が高まることも考えられます。今日の話題が大人数授業を担当する際に少しでも参考になれば幸いです。

質疑

【木村先生】板書やスライドを写真に撮る学生に対しては、どのように対応すべきでしょうか。

【渡邊先生】もし禁止するのであれば、禁止する理由として、なぜ教員が学生にノートを取ってもらいたいのか、つまりノートを取ることの学習効果をきちんと説明するのが良いでしょう。例えば留学生が多く受講しているなど、その授業の状況・条件にもよるので、私自身は一概に禁止すべきとは考えていません。

【柴口先生】マイク音量については逆の意見、すなわちもう少し音量を抑えて、ペースも抑えて、話すほうが良いように思っています。音量を上げると早口になるように思いますし、私語も増えるように思います。

【渡邊先生】貴重なご意見と思います。個人的には学生の私語があまり気にならないこともあります。気になるときは私自身がしばらく沈黙するようにしています。おそらく先生一人ひとりの語り口などによっても異なるでしょう。ありがとうございます。

【ロメロ先生】私も大人数の講義を担当していますが、授業では学生の座席を指定しており、結果的に私語が防げているように思います。同時に、名前を覚えることもできます。座席を指定することについて先生のお考えはありますか。

【渡邊先生】そのように手間を掛けることも重要だと思います。私語を防いだり集中させたりするには、やはりグループを指定して、作業させるのが一番だと思います。ありがとうございます。

話題提供「オープンクラス報告と今後の課題」 豊留 孝仁 講師

オープンクラスは先生方が別の先生の授業を参観するというものです。他大学でも行われており、授業改善の効果があるとされています。本学では参観と、その後のディスカッションを合わせて、これまで2年度の間、7回実施してきました。授業を公開いただいた7名の先生方にお礼申し上げます。ここで実際に担当いただいた先生方からコメントをいただきたいと思います。

【小池先生】先生方に見ていただくということで、かなり緊張しました。

【渡邊先生】私も同様です。授業後のディスカッションで高評価をいただいたのが大変勇気づけられました。

【平館先生】教職担当者という立場もあり、お引き受けしました。公開することで大変勉強になり、他の先生方も授業に悩んでいることがわかり、本学教員との一体感を感じることができました。

【石川先生】ディスカッション時のフィードバックが大変参考になりました。いただいたコメントから授業を客観視し、その後の授業にも役立っています。

【西田先生】通常の講義とは異なるスタイルの回を見ていただきました。少しでもお役に立てればと思い公開をお引き受けしました。

【橋本先生】公開するということもあり、クリッカーも（ふだんよりやや）積極的に活用してみました。ただ、専門の近い先生が聞いてらっしゃると思うとプレッシャーが強いと思います。公開する方だけでなく、聞きに行くときにもその点がためられるかもしれません。

緊張、プレッシャー、聞く側の配慮などは、確かに課題で検討が必要と考えています。ただ、参加者アンケートの結果は大変好評で、参考になったとコメントをいただきました。参加していただいた先生にもコメントをいただきたいと思います。

【窪田先生】大講義室の後ろに座ることで普段気づかないことなど、講義を客観視できたと思います。ミニレポートやレクチャーカードの効果も高いと思いました。

【平館先生】ミニレポートは学生の理解の様子を把握できるだけでなく、学生同士の他者理解を促す効果も感じています。

【小池先生】出席カードはクイズの解答を書いてもらうこともできます。レクチャーカ

ードも学科事務室にあるので積極的に使用していただくと良いかもしれません。

公開授業数が限られる、参加者数が低迷する、特定の参加者に偏る（繰り返し参加が多い）、若手の先生が少ない（授業担当する機会がないため？）、担当者の負担をどうするか、などは大きな課題だと思っています。回数を減らすとともに、（本報告会のような）別の企画や（本日の渡邊先生のレクチャーのような）授業方法ワークショップなどを行っていく、周知方法を改善する、参加のメリットを示す（インセンティブを与える）、指定期間は全授業を公開する、などを検討しています。今後ご協力のほどよろしくお願いいたします。

質疑

【押田先生】繰り返し参加者が多いということですが、参加の理由などを聞いているでしょうか。

【窪田先生】学生参加に対する姿勢をどうすべきかなど考えて参加しましたが、他の先生の意見ややり方を知ることができて参考になりました。

【小山先生】大講義室の授業方法などに興味があり参加しました。力を抜くところもあってよいのかなと参考になりました。

【渡邊先生】完璧な授業というのは難しいでしょうから、他の先生がしていること、していないこと、などをすべて同じようにするというのではなく、各自のスタイルや授業内容に応じて参考にするのが良いと思います。

それでは本日はどうもありがとうございました。

文責：齊藤 準（教育支援室）

平成 30 年度第 1 回 FD・SD 研修会
「オープンクラス報告会」実施要項

教育支援室

1. 日時：平成 30 年 5 月 31 日（木）16:00～17:30（90 分）

2. 場所：講義棟 5 番講義室

3. 内容と目的

本学で平成 28 年度から行っているオープンクラスについて、これまでの実施状況、成果や課題、参加者からの評価等をまとめて報告する。また、授業を公開いただいた先生方による授業実践の先進事例の一部を紹介するとともに、教育心理学の知見にもとづく授業構成の基礎知識・技術等についても講義形式で紹介し、さまざまなタイプの授業について実践知を共有する。

4. 対象：全教職員

5. スケジュール

司会：豊留 孝仁 講師（教育支援室）

書記：斉藤 準 講師（教育支援室）

16:00～16:05（5 分）

開会挨拶：古岡 秀文 副理事（教育支援室）

16:05～17:05（60 分）

話題提供：渡邊 芳之 教授（教育支援室）

「大講義室での授業をどうする?! 渡邊芳之先生による講義 Tips」

話題提供：豊留 孝仁 講師（教育支援室）

「オープンクラス報告と今後の課題」

17:05～17:30（25 分）

質疑・全体討論

平成30年度第1回FD・SD研修会

「大講義室での授業をどうする?! 渡邊芳之先生による講義Tips / オープンクラス報告と今後の課題」

日時：**5月31日16時**~17時半（予定）

会場：**5番**講義室



16:00から 「大講義室での授業をどうする?!
渡邊芳之先生による講義Tips」
渡邊 芳之 先生（教育支援室）

（引き続き） 「オープンクラス報告と今後の課題」
豊留 孝仁（教育支援室）



今回のFD/SDは先生方の日々の授業に活かしていただきたい、またサポートされる職員の方々にも役立つ（かも）、と考えて次の二つを企画しました。今は担当していなくても将来講義を担当する若手の先生方、経験が少なく不安を持っている先生方にも参考になると思います。

まず、オープンクラスでインスパイアされたスピンオフ企画として、「大講義室での授業をどうする?! 渡邊芳之先生による講義Tips」を行います。渡邊先生のご専門も交えながら講義、特に大講義室での講義の参考になるTipsをお話しいたします。

後半は豊留から平成28年度から2年間7回行ったオープンクラスについて、今後の課題も含めながら報告させていただきます。

教育支援室 FD・SDワーキンググループ
（本開催責任者・本ポスター文責：豊留）

平成30年度第1回FD・SD研修
平成30年5月31日

大講義室の授業をどうする？



人間科学研究部門
心理学 渡邊芳之

1



大講義室の授業

- 基本的には他の教室と同じ
他教室で大切なことは大講でも大切

大講義室ならではの特性

- 教員の声が聞き取りにくくなりやすい
板書やプレゼンの視認性が低下しやすい
学生の集中が途切れやすい

これらの問題にどう対処するか？

2

1. 大講義室での講義の基本姿勢



現代の大学生は 聞きにくいものは聞かない
見えにくいものは見ない

- ①できるだけ全員によく聞こえるように
→ マイクやスピーカーを適切に使う
- ②できるだけ全員によく見えるように
→ 板書やプレゼンに配慮する
部屋の照明やカーテンにも気を使う
- ③かつそれらが学生の集中を妨げないように

3

2. よく聞こえるように



大講義室のマイクとスピーカー

- 意外とよく聞こえていない
特に後方席、聞こえ具合は要チェック

学生に聞こえますかと聞いても意味なし

- 聞こえなくても何も言わない
そもそも質問が聞こえない

ややうるさいくらいの音量が適切

- 学生の集中力維持のためにも

4

3. よく見えるように



1) 板書の留意点

- ①板書だけで授業をする場合は下書きを作る
- ②字を大きく書く 大講では8cm角以上
- ③くずし字、筆記体は避ける 下手でも丁寧に
- ④黒板4面をフルに使う
→ 書いた字をできるだけ長く残す

実際に書いて一番後ろの席から見てみるといい

5

2) プレゼン・パワポの留意点



学生はプレゼンより板書のほうを好む

- プレゼンの字が多すぎて読めない
スピードにノートが追いつかない
意外と学生は喜んでないと認識すべき

いっぽう、プレゼンは図表や写真、動画などを簡単に見せられる点が優れる

- 板書とプレゼンの併用もよい方法
大講では横のスクリーンが使える

6

①適切な字数と字の大きさ

授業のプレゼンは
学会発表ではない

- 学生にとって適切な
情報量を考える

1枚に140字くらいが限度
板書で書けるのと同程度に
字の大きさも板書と同程度に

大講義室 64pt
大講義室 58pt
大講義室 52pt
大講義室 48pt
大講義室 42pt
大講義室 38pt
大講義室 32pt
大講義室 28pt
見やすさはどう？

7

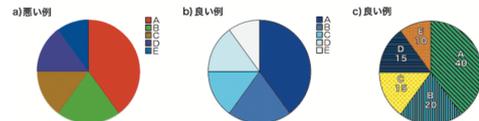
②多様な受講生への配慮

色覚異常を持つ人の割合

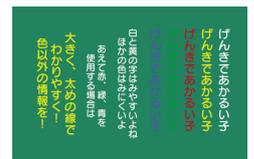
- 男性5% 女性0.2%
大講には13人もいる

板書やプレゼンでの色の使用

- 色だけで情報を示さない
モノクロでもわかるような示し方



8



3) 照明とカーテン

プレゼンを使うときに部屋全体を
暗くする必要はない

- 暗くなると集中力が低下する

黒板灯を消す、1列目の照明を消す

- ケースバイケースで調整する

直射日光が入ると視認性が大きく低下

- カーテンを適切に利用する



9

4. 学生の集中力を保つには

大講義室授業の大きな問題

- 学生が寝る
学生が私語をする

学生の集中力低下が原因

- 集中力を保つには

- ① ノートを取らせる
- ② 授業のリズムと雑談



10

1) ノートを取らせる

ノートを取らせる意味

- 授業内容の記録だけではない
アクティブ・リスニングとしてのノート
集中力を維持させるためのノート

ハンドアウトを配ればノートはいらない？

資料を配れば字を多くしてもよい？

- 学生の集中力を維持する配慮も必要
プレゼンでもノートが取れるように



11

2) 授業のリズムと雑談

起伏のない授業は眠気を誘う

- 集中力を回復させるメリハリが必要

プレゼンのイラストや音、動画

- 適宜挿入して眠気覚ましに

授業中の雑談

- 授業にリズムを与えて集中力を維持
先行オーガナイザーとして
授業内容に興味を持たせる効果も

12

おわりに



大学の人員削減、経費削減

→ 大教室の授業は増えることはあれ
減ることはない

ポジティブに考える

→ 大講義室で上手にできれば
小教室の授業もバッチリ

成長のチャンスと思おう！？

オープンクラスを振り返って ～その効果と今後の課題～



豊留 孝仁

教育支援室

FD・SDワーキンググループ

配布資料について

- 面白い資料になりませんでした（すいません…）
- 文字が多いです（アンケートからの抜粋のため）
- さらっと流した場所は時間のあるときに読んでいただければ幸いです

報告の概要

- オープンクラスについて
- 参加者アンケートの結果
- 追跡アンケートの結果
- 問題点と今後の挑戦

(これまでに開催してきた) オープンクラスとは

- 教職員向けの公開授業
- あらかじめ（おおよそ一ヶ月前）にメールにてお知らせ
- 対象の授業を学生と一緒に受講
- 終わった後に講師と30分から1時間程度ディスカッション

公開の対象とした先生

- H28年度の3回とH29年度の2回
 - 授業アンケートの評価が高かった授業から選択して依頼
- H29年度の2回
 - 加えて、授業で特徴あるツールを使っている授業を対象に

ご協力いただいた先生方 (ありがとうございました！)

1. 平舘 善明先生 (2016年11月16日)
2. 小池 正徳先生 (2016年11月29日)
3. 迫田 義博先生 (2017年1月26日)
4. 渡邊 芳之先生 (2017年6月1日)
5. 石川 透先生 (2017年7月4日)
6. 仙北谷 康先生/橋本 靖先生
(2017年10月19日)
7. 西田 武弘先生 (2018年2月9日)

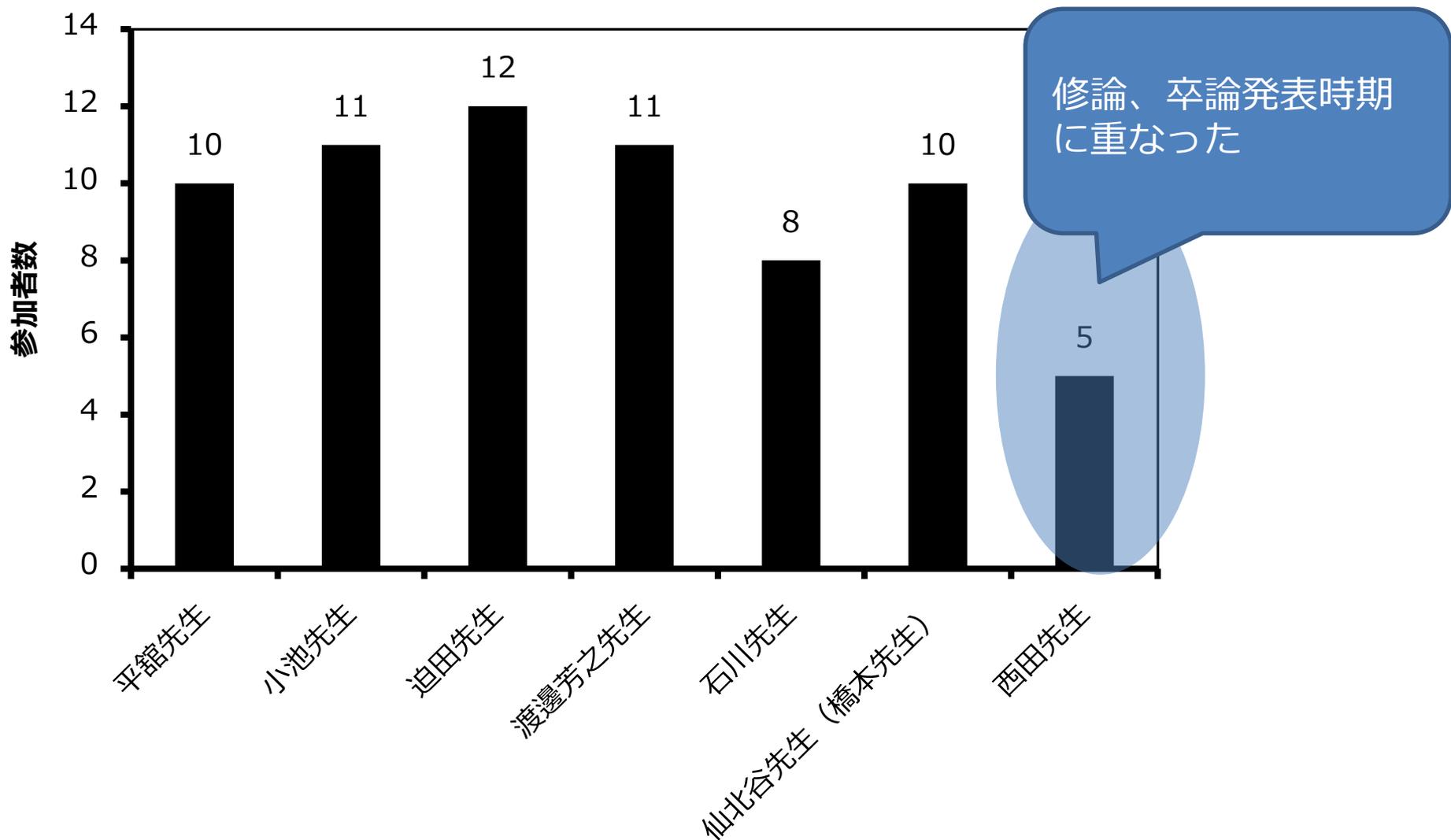
オープンクラスの講師からの目線

**ここで担当いただいた先生から
コメントを！**

オープンクラスの参加者からの目線

参加者はどう感じたか？

参加いただいた教職員の皆様 (ありがとうございました！)



参加者へのアンケート

本日のオープンクラスに参加して

オープンクラスへのご参加ありがとうございます。
今後の開催に向けて改善点などを知りたいと思っております。よろしければ下記のアンケートにお答えいただければ幸いです。ラジオボタンは択一、チェックボックスは複数回答可能となっております。

よろしくお願いいたします。

*必須

名前の記入をお願いします。 *

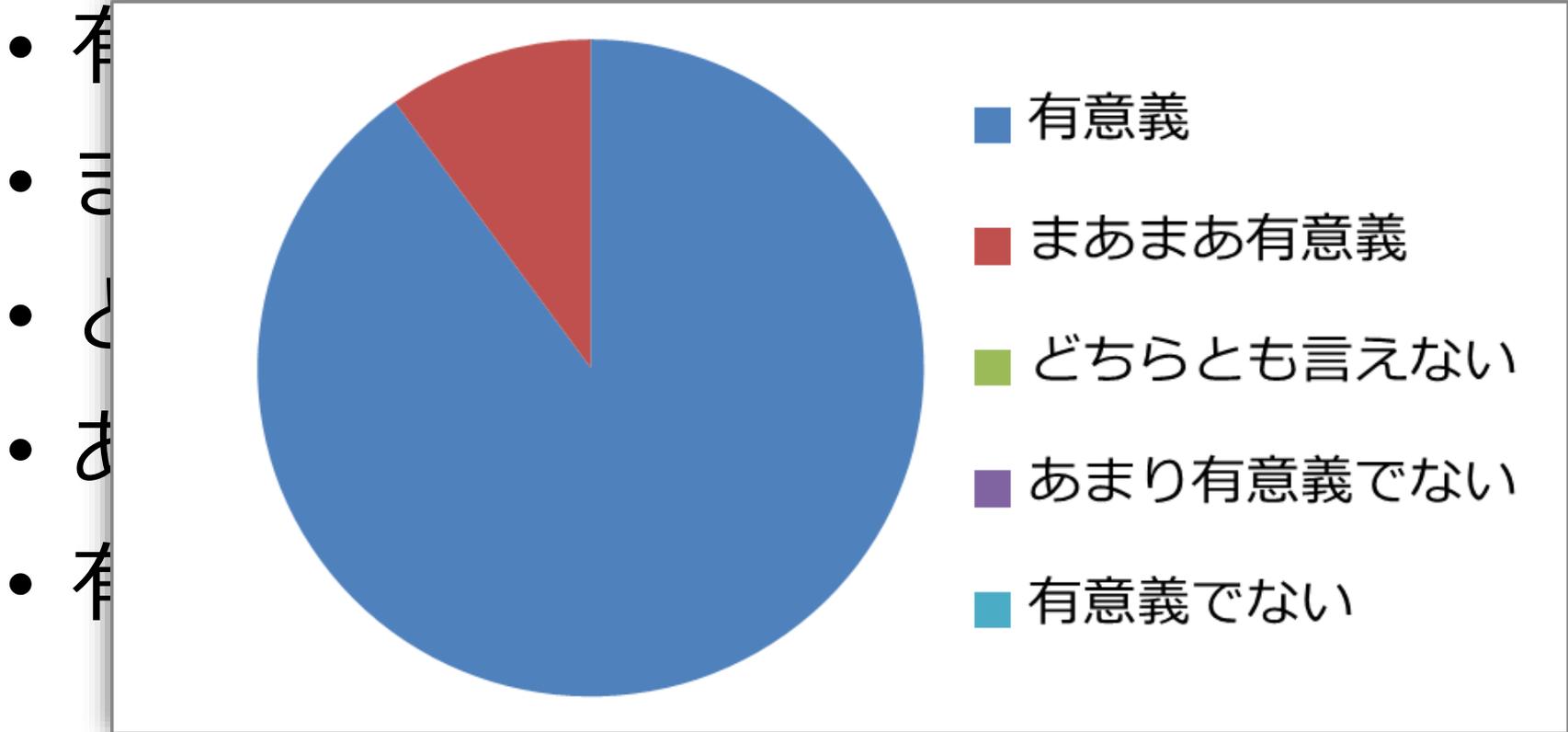
回答を入力

次へ

Google フォーム

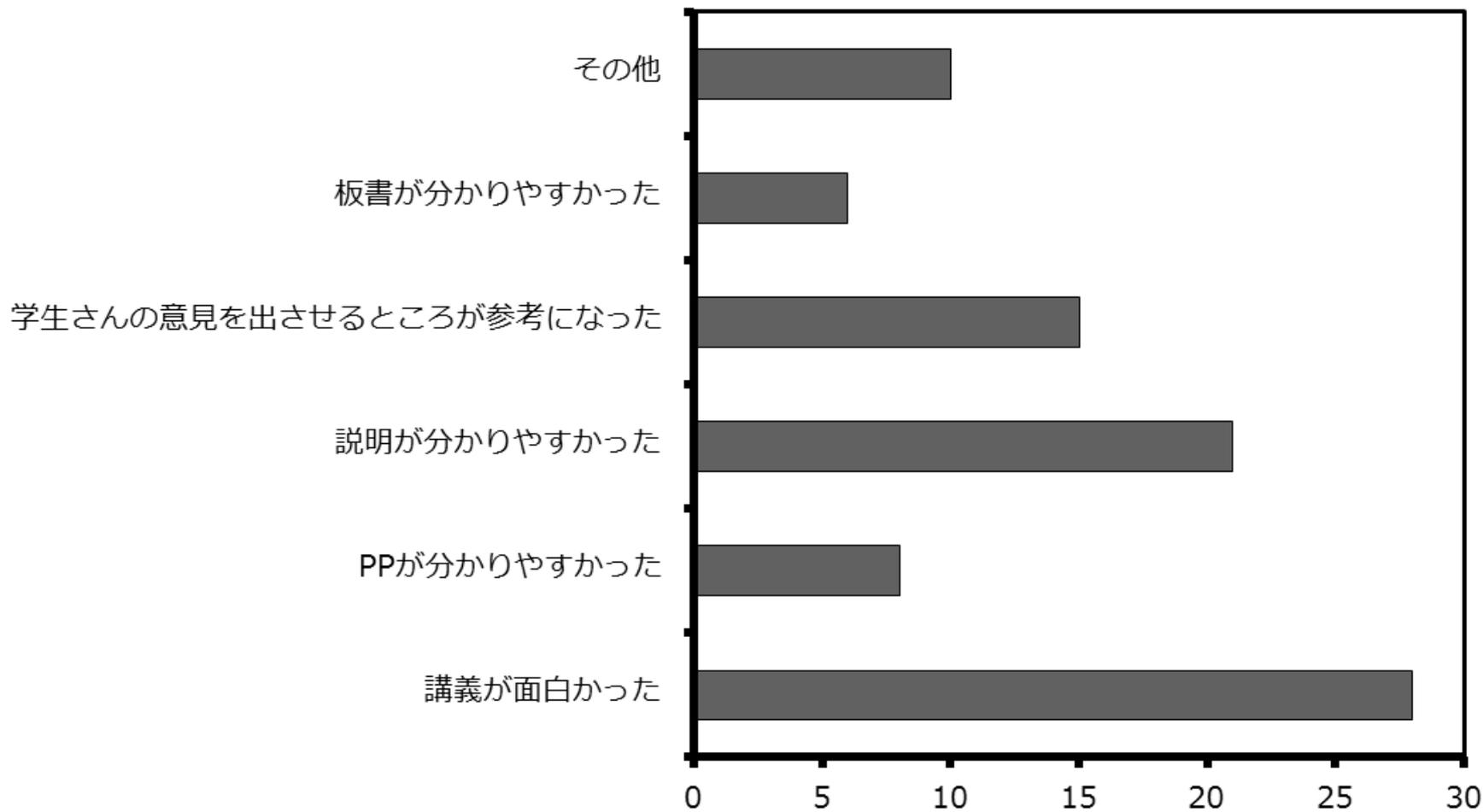
自分にとっては、Google formを実際に使用する機会になった。

オープンクラスは 有意義でしたか？



参加者の9割が有意義と答えました！

どこが有意義でしたか？



…もしかすると、

授業方法もそうだが、自分が
教える授業や研究、興味に関する内容は他の先生の授業を聞きたいという需要がある？

有意義だった点： 自由記載回答

- 大講義室での講義の仕方を客観的に見る機会であり、参考になった。
- 自分の講義に活かせる点を学んだ
- 学生の学習への興味を引き出すポイントが理解できた
- 授業の構成のみならず、教育心理学そのものの内容も大変参考になりました

有意義だった点： 自由記載回答（続き）

- 今まで他の先生の講義を聴く機会がなかった。今回参加して、講義の進め方、資料と口頭での説明の配分など、非常に参考になった。
- 終了後のディスカッション
- クリッカーを講義に取り入れるアイデアが参考になった
- 自分の講義について他の方の感想が聞けた

アンケートから

- 平舘先生と迫田先生のクラスに参加しましたが、来年度以降この様なワークショップがありましたら、お二方のオープンクラスを是非、今回来られなかった先生方に聞いてもらいたいと思いました。

（「オープンクラスをお願いしたい先生や授業は？」というアンケートに対する回答）

アンケートから

- 平舘先生の授業ポリシーをお聞きし、授業構成に納得がいききました。また、他の先生方と学生の授業態度や興味・関心の引き出し方に関するディスカッションができたのも大変有意義でした。ミニレポートはすぐにでも実践したいと思います。

（「その他コメント」に対する回答）

その他アンケートから (その他コメントから)

- クイズの提示方法やその内容の工夫, PPの構成等, 大変参考になりました。
- 卒論修論の〆切時期はさけていただけるとありがたいです。
- もう少し若手の先生の参加を促す方法を模索しましょう。

追跡アンケート

(H29年度2回目までの参加者対象)

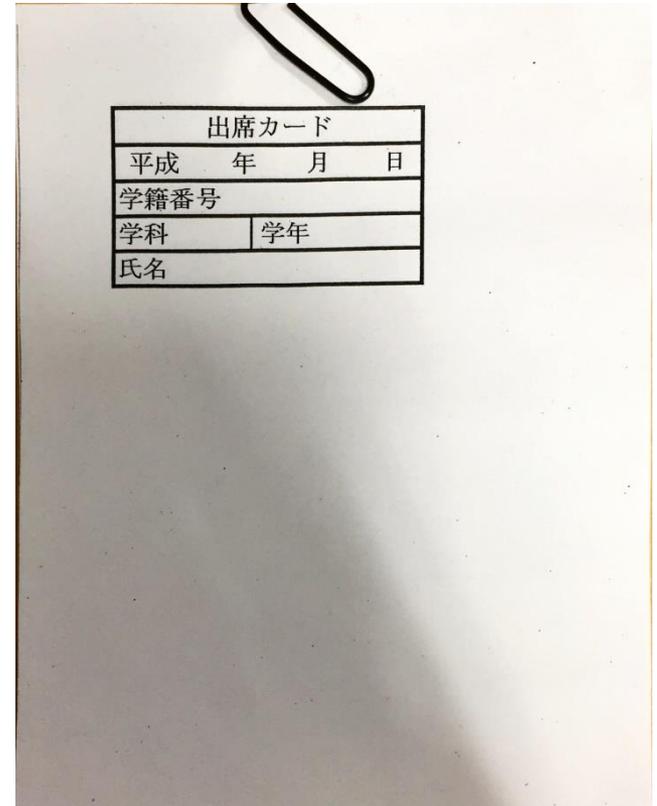
質問

- オープンクラスを活かした例などがあれば教えていただきたいと思います。また、使った結果なども教えて頂きたいと思います。

(7名から回答をいただきました)

追跡アンケートから

- 小池先生が使われていた出席カードを使ってみた。まだ、うまく使えていないがいろいろと試してみたい。いわゆる「ピ帰り」とかを防ぐのにも役に立ちそうです。



自分にとっては、授業ツールを実用例として見る事が出来て良かった。

小池先生から追加コメント

その他、オープンクラスに 登場したツール

moodle

帯広畜産大学 (OUAVM)

ナビゲーション

Home

▶ コース

Announcements

コース

▼ 2017

▼ 畜産学部 (Undergraduate)

▼ 基礎教育

▼ 学ぶ基盤

▼ 理論科目

物理学概論

経済学概論

▼ 実験演習科目

情報処理演習II

あなたはログインしていません。(ログイン)

帯広畜産大学 (OUAVM)

Announcements

コース

▼ 2017

▼ 畜産学部 (Undergraduate)

▼ 基礎教育

▼ 学ぶ基盤

▼ 理論科目

物理学概論

経済学概論

▼ 実験演習科目

情報処理演習II

KEEPAD JAPAN English | 日本語

ホーム クリッカー 電子黒板eBeam サポート About Us お問い合わせ

TurningPoint 事例・論文

WindowsもMacも、最新の環境で。

TurningPoint紹介動画

KEEPAD JAPAN 「クリッカー」というソリューション 「電子黒板」というソリューション

私たちが提供するもの

目に見えない理解度。目に見えない集中力。
目に見えない楽しさ (あるいは、つまらなさ)。

これらを「見える化」し、講演者と参加者が共有できたら…?
世界中での経験と実績に基づく「いつの間にか誰もが夢中になってしまう」ノウハウがあります。皆様にご提供する私たちの最大の「商品」は、このノウハウなのです。

NEWS

NEW 7月8日 (土) 大阪にて、第6回KEEPAD JAPANユーザー会「クリッカー (TurningPoint) を活用したアクティブラーニング研究会」を開催します。(2017年6月7日)

NEW MoodleMeet講演レポート「クリッカーを

私たちが提供し

© LUL Technology Pty. Limited

クリッカー

他にはこんな情報も



国立大学法人
常広畜産大学 Obihiro University of
Agriculture & Veterinary Medicine

大学教育センター Center for University Educational Affairs

教育支援室 学生相談室 就職支援室 課外活動支援室 留学生支援室

Menu

- ▶ HOME
- ▶ 運営組織図
- ▶ 授業評価
- ▶ FD研修
- ▶ 学生支援マニュアル (学内専用)
- ▶ クラス・ユニット担任

平成22年度
大学教育・学生支援事業【テーマA】
大学教育推進プログラム
ピアサポートで支える
補習教育と初年次教育

▶ 授業における板書・プレゼンテーションの留意点

平成15年5月 授業改善支援室

大学の授業は指導要領などに拘束されるものではなく、その内容や方法について担当教員の多様な思想や姿勢、方法などが反映されることが、授業効果の基礎になっています。したがって、大学教育では授業の方法などについて狭い規範を定めたり、特定の授業方法だけを推奨するようなことは、教育効果の面から言っても好ましくありません。

しかし一方で、一定の授業効果をあげるための最低限の留意点、授業内容を学生に確実に伝達するための最低条件といったものは確かに存在し、それを満たしていない場合には、いかに個性的で内容豊かな授業を計画しても授業効果が上がりにくいことも事実です。そうした点について教員がそれぞれ問題意識を持ち、自発的に授業効果の改善を図ることが、授業をより有意義なものとし、学生の授業満足度を向上させるために必要です。

そこで、授業改善支援室では、そうした基本的な授業改善の視点についての資料を学内教員に提供し、授業改善を支援していきたいと考えています。

「学生による授業評価」の結果や、評価用紙の自由記述内容を見ると、多くの学生が、多くの授業で教員の板書やプレゼンテーション・ソフト利用の方法に不満を持っていることがわかります。逆に、板書やプレゼンテーションへの評価が高い授業は、全般的な学生の授業満足度も高くなる傾向があります(注1)。ここでは、授業における効果的な板書のしかた、プレゼンテーションソフトの利用法、それらとノートとの関係などについて考えます。

▶▶ 1. 板書・プレゼンテーションの目的と最低条件

板書とプレゼンテーションの目的は、以下のように整理することができます。ここでは「授業中に教員が話す内容」のことを「授業」と呼んで、それと板書・プレゼンテーションとの関係を明確にしたいと思います。

(<http://www.obihiro.ac.jp/~cea/bansyo.html>)

追跡アンケートから

- 以前から授業途中で学生に個別に質問をすることはあったが、オープンクラスに参加して、より授業中の質問回数を増やすように努めた。利点として学生により緊張感を持たせて受講させることは可能となったが、欠点として反応の少ない学生から回答を引き出すために余分な時間が必要となり、学生に予習と復習を命じたが、学生間のレベル格差が生じてきている。

追跡アンケートから

- オープンクラスはまだ1回しか参加していませんが、とても参考になりました。石川先生の講義が参考になりました。トピックによりますが、パワポ1枚にはミニマルな情報を記載し、あとは講義での説明により一緒に考えさせる講義をするようにしています。また、できるだけグループ学習を取り入れ、講義時間内に10分程度のグループでのディスカッションをさせることで、学生を授業に巻き込めるよう工夫しています。全員ではありませんが、クラスでの自発的な質問が増えたように感じています。

追跡アンケートから

- 平舘先生の授業：学生に用紙を配布→授業中に質問→用紙に回答を書く時間を設ける→数名に書いたことを答えさせる。以上の流れを取り入れました。学生の答えから話を進められるような授業構成にし、「学習への興味を持たせるきっかけ作り」を心がけました。学生の多様な考えを知ってから授業ができるので、話の展開が作りやすかったと思います。

追跡アンケートから

- 教職の平舘先生の方法だったと思います。授業中に学生に質問して、考えさせ、答えさせるようにしてみました。1つのクラスは大人数で180名ぐらいいて、学年も違うため、学生は積極的に答えませんでした。20名弱のクラスでは、こちらから指名して答えてもらいました。少人数では学生との距離が少し縮まった感じがします。 大人数クラスでの授業法は、再度見てみたいです。

追跡アンケートから

- 渡邊先生の授業とディスカッションでのお言葉が印象に残っています。「だれてくると雑談を入れる(?)。」「冒頭にお天気の話でもいい。」雑談が苦手な私は、授業の冒頭で天気の話をするようにトライしています。

追跡アンケートから

- 他の先生の講義を見ることは非常に勉強になります。これまで、1回を除いて全て参加させていただきました。間の取り方、最初のかみ、板書の量やスライドの分量などいろいろ参考にさせていただき、自分の講義に活用させてもらっています。特に、平舘先生や渡邊先生の学生の意見を促すところやキャッチーなところは参考にさせてもらっています。今後ともこのような企画、機会を続けていただければと思っています。できるだけ参加し、勉強するようになりたいと思っています。

平舘先生からコメント

渡邊先生からコメント

オープンクラスの参加者からの目線

実際の参加者の皆さんからコメントいかがですか？

今後の課題

問題点は？ 今後のやり方は？

担当者がツライ

- 4回は多くてツライ
- ディスカッションはテープ起こしをしてきたが結構ツライ
- 自分の予定がネックになってしまってツライ
- 2回くらいにしたい

参加者が偏っている？

- まんべんなく参加者が居る…という感じではない
- （ありがたいことに）複数回来てくれている参加者が多い（27名中15名）
- 若手の先生が割と少ない？（どこまでが若手かの議論はここではしません）

どうするか？

- 従来のオープンクラスも少なくして開催
- 並行して、新たなオープンクラス開催の試みを検討中
- 授業方法のワークショップもアリ？

従来のオープンクラスの改善 (案1)

- お知らせの強化
 - この報告（動機になると良いな）
 - 通常のお知らせの改善…？
- 参加への動機付けをより強く！
 - 参加することのメリットを明確に
 - インセンティブ？先生に教育方法改善へ取り組んだ証を出す？

新たなオープンクラスの試み (案2)

- 全てのクラス（もしくは1週間等の一定期間）を対象にする
 - 実習等は除く
 - どーしてもイヤだ、という先生以外

新たなオープンクラスの試み (案2) 続き

- 「この授業聞きたいな」という先生に各先生がコンタクト
- 授業後に5分でも10分でもいいので授業方法に関する

新たなオープンクラスの試み (案2) 続き

- A4一枚くらいの報告書を出してもらおう
- FD活動をした、ということで評価（インセンティブ）の対象に！（なればいいな）

平成30年度第1回FD・SD研修会に関するアンケート

設問1 今日のFD・SD研修会に参加したことは、ご自身の教育能力の改善のために有意義でしたか？

1 非常に有意義だった	31
2 やや有意義だった	5
3 どちらともいえない	1
4 あまり有意義でなかった	
5 まったく有意義でなかった	
計	37

設問2 今回のFD・SD研修会のテーマに関連した追加の質問や意見などがありましたらお書きください。

<p>・大講義室での授業に双方向性を求めるのは難しいでしょうか</p> <p>・非常に有意義でした。</p> <p>・とても参考になりました。時間の許す限り、参加したいと思います。</p>
<p>・大講義室の温度、空調コントロール、プロジェクターの明るさ等、テクニカルな話も聞きたかったです。ありがとうございました。</p>
<p>・とても参考になりました。まだ授業することにあまり慣れていないため、手探りで進めています。このような研修会がまたあれば嬉しいです。</p>
<p>・大講義室での授業の基本を理解する上で、有意義だったと思う。たぶん授業方法はいろいろあるのだろうと思うので、柴口先生の話があったように、参考となる姿勢で受けとる必要があるのかなと思う。</p>
<p>・ありがとうございました。</p>
<p>・大変参考になりました。よかったです。こうした類のFDをまた開催して下さい。予定時間をあまりオーバーしないで下さい。皆さんご多用ですので、ますます参加者が減る原因になります。</p>
<p>・マス教育は、これから多くなるのが予測されるので為になった。特に明かりの調整が為になった。</p>
<p>・講義の節目で効果音やメロディー(開始時、雑談を始めるとき etc)を入れてみれば学生の注意をひけるのではと思いました。このような実験を行ってみたいという例はあるのでしょうか。</p>
<p>・渡邊先生の雑談のスキルを私も身につけたいと思い、色々授業中にトライしているのですが、学生さんたちの冷やかな目線にくじけそうな時もあります。ディスカッションの際、授業準備にかなりの時間を割かれているとお聞きしましたので、準備も含めて、これからブラッシュアップしていければと思っています。</p>
<p>・今後もこのような会をお願いします。</p>
<p>・授業へのイントロ(興味をもってもらう)の方法についても聞きたかったです。(どこかの回でディスカッションがあったかもしれませんが)</p>

設問3 その他、FD・SD研修会全般に関するご意見、ご提案などがあれば自由にお書き下さい。

<p>・いい企画だと思いました。</p>
<p>・産学(官)連携の例 立ち上げ方等について、とりあげてもらえれば</p>
<p>・FD・SDは良いと思いますが、今後ともノルマにするのはやめてほしいと思います。</p>
<p>・渡邊先生、豊留先生、ご苦労様でした。FD・SD研修会全般、出席、企画等の多元的業績評価のポイントの見直しを考えた方が良いかもしれないですね。</p>
<p>・受験区分の違いと学生の成績(語学、計算系基礎的(専門)科目、その他の違いを含めて)、卒業・大学院への進学率・就職率(行き先)の違いに関する追跡調査結果をぜひ聴きたい。</p>
<p>・これから通信を使った遠隔授業が増えるかもしれないので、今後、そんなテーマのものがあればうれしい！！</p>
<p>・オープンクラスは、事務職員(教員ではなく)も参加可能でしょうか？ぜひ一度参加させていただけるとありがたいと思います。</p>
<p>・予定があれば、オープンクラスに参加したいと思います。</p>